

【文学研究科】

【日本文学】

Q1：授業について、どんな授業がありますか？

A：上代（奈良時代以前）から近現代まで、各時代の日本文学を研究対象としている教員による、各時代の文学作品を取りあげた授業はもとより、日本語の分析を行う国語学や日本の古典に影響を与えた漢文学の授業が展開されています。

Q2：学部の授業に比べて大変ですか？

A：学部の授業と比べると、大学院ではより専門性を高めた内容となっており、ことばの本質やことばによる表現について、ひとりひとりの問題意識に即して取り組んでいるので、充実感があります。

Q3：大学院では就職活動と研究とを両立できますか？ 修了後の進路はどのようになっていますか？

A：就活と研究の両立について、心配はありません。例年、博士前期課程に在籍しながら就活を行い、民間企業や公務員など希望する職業に就く人はもとより、教職を目指して修了後、高等学校などの教員になっている人も大勢います。博士後期課程修了者の進路は、より専門性が高い大学教員などの研究職、高等学校の国語教員、塾講師、教育・研究支援や教材関係の企業、出版関連などです。

Q4：文芸メディア専攻と日本文学専攻の違いは何ですか？

A：重なりあう部分もありますが、しいて言えば、文芸メディア専攻は文学作品が成立した後の展開をメディアを視野に入れて研究する方法をとるのに対し、日本文学専攻はことばを使って作家が表現を成立させていく過程に力点を置いて探究する傾向が見られます。

Q5：明治大学大学院 日本文学専攻で開講されている面白い授業は？

A：総合史学研究（博士前期課程）や文化継承学（博士後期課程）のように、他分野の先生や院生が一堂に会して発表しあう機会が多く設けられていて、多くの刺激が得られる点は、明治の大学院ならではの特徴だと思います。

Q6：専門外の時代の授業や、他専攻の授業も履修できますか？

A：自分の専門とする時代以外の日本文学の授業、日本語学、漢文学はもちろん、他専攻の授業も履修できます。

【英文学】

Q1：英文学専攻の構成について教えてください。

A：英文学専修、米文学専修、英語学専修、英語教職専修の4つの専修からなっています。英語教職専修を除く3専修には博士前期課程に加えて、博士後期課程が設置されています。英語教職専修は主に中学・高校の英語教員志望の学生に向けて設置されています。

Q2：入試について教えてください。

A：年二回行われる通常の入試（9月のⅠ期入試、2月のⅡ期入試、英語教職専修及び後期課程はⅡ期入試のみ。）に加えて、学内選考（7月）を行っています。学内選考及び英語教職専修の受験資格については募集要項をご覧ください。

Q3：学位取得に必要な年数について教えてください。

A：通常は博士前期課程で最低2年間、後期課程で3年間の在籍が必要となりますが、学部4年次に大学院科目を一定単位修得することで、博士前期課程を1年間で修了することも可能です（英語教職専修の場合）。

Q4：他の大学院との交流について教えてください。

A：「大学院英文学専攻課程協議会」に参加する12大学（青山学院大学、法政大学、上智大学、明治大学、明治学院大学、日本女子大学、立教大学、聖心女子大学、東北学院大学、東京女子大学、東洋大学、津田塾大学）の大学院英文学専攻（または相当の専攻）で相互に授業履修（単位の付与あり、上限あり。）を可能にし、関心領域の専門家の授業を受ける機会、他大学院生との交流の機会を提供しています。また研究発表会が年一回共同開催され、本学の大学院生も積極的に参加しています。2019年度は明治大学で開催されました。

【仏文学】

Q1：仏文学専攻という名ですが、フランス文学以外も学べますか？

A：はい、フランス文学だけではなく、フランス語学、文化や思想など広く学べます。

Q2：大学院の間にフランスに留学したいと考えているのですが。

A：「大学間協定留学」、「学部間協定留学」等の留学制度があり、またいくつかの留学助成金の制度もあります。応募資格や学内選考はありますが、多くの大学院生が助成金を得てフランスに留学しています。

【独文学】

Q1：他大学出身の学生も受け入れてもらえますか？

A：もちろんです。熱意のある方はすべて大歓迎いたします。

Q2：独文学ではどのような分野の研究指導を受けられますか？

A：幅広い分野の指導が可能です。教授陣が、18世紀から20世紀のドイツ語圏文学全般とドイツ語学、思想および文化学を主たる研究分野としていますので、これらの分野の指導が中心となります。

Q3：ドイツ語圏への留学制度はありますか？

A：はい、もちろんあります。大学・学部間協定を結んでいる優れたドイツ語圏の大学が複数あります。また、留学の助成制度も充実しています。

【演劇学】

Q1：演劇学とはどういう学問ですか。また、演劇学を学ぶことのメリットって何ですか？

A：単純に戯曲を研究することのみならず、広く演劇を成立させる社会環境・文化状況を同時に学ぶ学問です。

結果的に、それは、演劇を取り巻く人間の営みの諸相を、多面的に解析していくことにもなります。

Q2：演劇学専攻を修了すると、どういう進路がありますか？

A：研究者の道に進むだけでなく、劇場や演劇興行に関わる企業に就職している卒業生もいます。もちろん一般企業にも就職しています。

【文芸メディア】

Q1：文芸メディア専攻でアニメの研究はできますか？

A：自分が志望する指導教員の専門分野を事前によくリサーチして下さい。

それを知るには、その教員の著書や論文を読まなければなりません。

【日本史学】

Q1：奨学金などはどうなっているのか？

A：日本史専修独自のものはありませんが、大学院や文学研究科その他の奨学金があります。

Q2：研究費などはあるのか？

A：日本史学専修独自のはありません。大学院や文学研究科で申請できる研究費や史学専修のみ申請できる奨学金があります。

Q3：大学院以後の進路は？

A：博士後期課程に進学、修了後に大学教員などの道もあります。

博士前期課程修了から、博物館学芸員・高校教員に加え、一般職に就く人も多くいます。

【アジア史】

Q1：大学院では、どのような授業があるのか？

A：専攻・専修によっても違いますが、アジア史の場合、ほとんどの授業が演習形式です。つまり、資料や先行研究などの文献を講読します。その予習にかなりの時間を使いますが、それによって、資料の読解能力・分析能力、問題の解決能力が飛躍的に伸びます。

Q.2：地歴で専修免許状をとりたいが、アジア史に行くのと臨床教育学に行くのとどちらがうか？

A：歴史学の論証を自分でやってみることができるのが、史学専攻です。学説が出来上がる背景を自分で体験することは、地歴・社会科の教員になっても必ず役にたつと思います。

Q.3：大学院での授業とアルバイトの両立は、みんなどのようにしているのか？

A：ケースバイケースですが、TAになったり、教員の研究のアルバイトをするなど、学内でアルバイトをするという選択肢も出てきます。また、成績や経済状況によって、大学からの奨学金を得られるケースも多いです。

【西洋史学】

Q1：入学試験のためにどのような準備をすればよいでしょうか？

A：大学院の博士課程前期の試験は筆記試験と面接です。西洋史専修の筆記試験は英語と専門科目（第二外国語も含む）です。英語の試験は日本語訳が中心ですが、史学専攻4専修から出題された4題のうち3題に解答する必要があり、そのうち1題は西洋史専修から出題された問題に解答しなければなりません。また、専門科目の試験は、第二外国語（フランス語、ドイツ語、ロシア語のうちから一言語を選択して解答）と歴史的事項の説明に関する問題です。

大学院博士課程後期の試験は、専門分野の語学の筆記試験（たとえば、フランス語圏ならフランス語）と面接になります。

Q.2：入学後の授業について教えてください。

A：博士前期課程の2年間では、基本的には指導教員の指導を受けながら卒業論文よりも専門性の高い修士論文を執筆することが中心になります。しかし、この課程では、最低32単位履修する必要があることから、一年次では、他の専門分野の科目も履修する必要があります。また、文学研究科の史学専攻では、複数の大学と連携し、単位互換も行っていますので、自分の専門分野により近い他大学の先生の授業を履修することも可能です。

し、必要であれば、本学の学部の授業を履修することもできます。

二年次では、指導教員の下で、修士論文を執筆していくことが中心です。この年次では、西洋史専修全体で「修士論文中間報告会」を開催し、他の院生や教員からコメントをもらう機会も用意しています。

博士課程後期では、雑誌論文などの執筆だけでなく、それらをベースにして博士学位請求論文を執筆することが大きな課題になります。何よりも、学位を取得することがもっとも重要です。

Q3：奨学金について教えてください。

A：詳しくは、文学研究科のパンフレットやホームページをご覧ください。また、出身都道府県や財団などから奨学金を取得できる可能性もありますので、適宜、情報収集に励んでください。

Q4：大学院修了後の就職の状況や可能性について教えてください。

A：前期課程修了者のなかには、学部および前期課程在籍中に教員免除を取得して、中学校や高校の社会科の教員になっている先輩も少なくありません。他に、在学中に学芸員資格を取得し学芸員になった人や、一般企業に就職した修了生もいます。また、後期課程在籍中もしくはその後、博士号を取得して大学の教員になっている先輩たちもいます。なお、修士論文の執筆には大変な時間と労力を費やすことが必要とされますので、大学院入学後、論文作成と並行して新たな資格の取得を目指すことはお勧めできません。

Q5：留学生ですが、どの程度の日本語能力が必要でしょうか？

A：指導教員と問題なくコミュニケーションをとることができ、修士論文あるいは博士論文の執筆が可能な日本語能力が必要です。文学研究科では、入試時に必要とされる日本語能力試験等の基準は特に定めてはいませんが、指導教員と問題なくコミュニケーションをとることができ、修士論文あるいは博士論文の執筆が可能な、高度な日本語能力が必要です。

【考古学】

Q1：どのような時代の研究ができますか？

A：専任教員が専門としている旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代などで日本考古学を中心としています。

Q2：学部が明治大学でなくとも、大丈夫ですか。

A：もちろん他大学からも入学された院生もいますし、大歓迎です。

Q3：前期課程修了後の就職はどのようなものがありますか。

A：さらに専門的な研究を続けるために博士後期課程へ進学する院生もいますが、博物館や埋蔵文化財関係の行政職に就職する人もいます。これから10数年は、全国の多くの自治体で、埋蔵文化財担当職員の募集が続きます。そこでは、単に発掘できるだけでなく、地域の文化財の価値を的確に把握し、歴史遺産として保存し活用しうる力が求められています。そのためには大学院での本格的な学びがとても重要な基盤となります。

【地理学】

Q1：学部時代、地理学専攻ではないのですが、入学できますか。

A：学部時代の専門は問いません。研究対象に対する研究の意欲や執着、主体的に取り組んでいく姿勢の方が肝要です。とはいっても入試の専門試験でそれなりの実績を示すことは求められます。地理学に関する基本的な教科書の類は独習しておく必要があるでしょう。不十分な点は入学後に学部の授業を聴講することで補えます。

Q2：在学中に留学することは出来ますか。

A：むしろ奨励したいと考えています。ただし、修士論文作成のスケジュールを考えると、正規年限（2年）で修了するためにはそれなりの努力が必要なことは承知しておいてください。

Q3：在学中の研究支援にはどのようなものがありますか。

A：日本学生支援機構の奨学金に応募することが出来ます。また、1年次に入学した成績優秀者には授業料2分の1相当額の明治大学大学院研究奨励奨学金があります。在籍者にはTA制度があります。学部・大学院の教育補助業務に一定期間従事するもので、報酬は1週1時間につき月額5,700円で、週12時間相当の業務を行うことにより月額68,000円程度の収入になります。博士後期課程在籍者には、大学院に在籍したまま本学の助手として従事する制度があります。任期は1年、3回まで更新が可能です。専門分野の研究等に専念するほか、本学の教育補助業務に一定時間従事することが求められますが、大学院生であることを考慮し、業務内容が研究活動に支障のないよう配慮されます。採用中は専任教員に準じた給与が支給（月額22～24万円）されることにより、経済的に安定し、研究活動に専念することができます。本学の社会保険にも加入することができます。

Q4：修了後の進路はどのようになっていますか。

A：後期課程に進むよりも就職する方が一般的ですし、私たちもそれでよいと思っています。学部の専門課程でやり残したことを前期課程の2年間で突き詰めてもらえれば十分ですし、さらに興味が湧いたときに後期課程に進めばよいのです。就職希望者は、あら

はじめその意思を示してもらえれば、研究のすすめ方に配慮をしています。

就職先は学部卒業生とほとんど変わりありません。学部生と同様の就活スケジュールをこなす必要がありますが、大学院で問題意識を研ぎ澄まし、発表では研究をまとめる力と応答する力を鍛えられるので、学部生よりも希望就職先に進む可能性は高くなるようです。

【臨床心理学】

Q1：心理学部を卒業していないのですが、臨床心理学専修に入学できますか？また資格はとれますか？

A：心理学部を卒業していなくても受験に合格すれば入学できます。資格については、臨床心理士資格は取得可能ですが、公認心理師資格は、学部卒業までに定められた科目を履修していなければ受験資格が得られません。

Q2：修士課程を卒業したら、臨床心理士と公認心理師の資格をとれますか？

A：卒業するだけでは資格は取得できません。臨床心理士は、大学院修士課程を修了後、資格認定協会による試験に合格しなければなりません。

公認心理師は、基本的に、国が定めた所定カリキュラムを持つ大学にて、学部・修士課程の順に資格取得に必要な科目を履修していれば、受験資格を得ることができます。明治大学は学部・大学院ともに公認心理師資格取得に向けた必要なカリキュラムを設置し対応しています。

Q3：明治大学臨床心理学専修の特長は？

A：実習の豊富さと、指導の手厚さです。実習の内容については、心理臨床センターの相談員やスーパーバイザーに丁寧に指導してもらえるので、悩みを1人で抱え込まずに進めていくことができます。そして卒業後においても、現役院生を交えた事例検討会や資格試験前の模擬練習など手厚くサポートしてもらえます。

Q4：実習では具体的にどんなことができますか？

A：大きくわけて、内部実習と外部実習の2つがあります。内部実習では、大学付属の心理臨床センターにて、カウンセリングやプレイセラピー、心理検査の担当を受け持ちます。外部実習では、医療・教育・福祉・司法それぞれの実習先に派遣され、例えば医療領域の精神科クリニックでは、予診・診察陪席・心理検査など、福祉領域の児童養護施設では、実際に施設の生活現場のなかで子どもと関わる経験など、各分野の実習機関において、将来に向けた実践的トレーニングを豊富に経験することができます。

Q5：授業はどのくらいありますか？

A：時間割の例です（2020年度、添付参照）

Q6：修了後の進路はどのようなものがありますか？

A：今までの修了生の実績として、精神科病棟やクリニック、福祉施設、教育相談所、スクールカウンセラー、産業カウンセラー、少年鑑別所など、さまざまな臨床現場への就職や、研究職を目指して博士後期課程への進学など、多岐に渡っています。修士課程修了後はまず非常勤の掛け持ちの形で就職する人が多いですが、法務省などの国家公務員をはじめ、各地方公共団体の公務員（心理専門職）試験に合格して常勤につく人も見られます。

Q7：これまでの修士論文のテーマを教えてください。

A：基本的に毎年度、各院生さんが取り組みたいさまざまなテーマをできるだけ尊重して、それが論文として形にまとまるよう、指導教員はサポート的に指導する姿勢で臨んでいます。ご参考までに、2019年度に提出されたテーマは以下の通りです。

「大学進学決定の過程における親子間葛藤—青年の感情・行動に着目して—」

「余暇活動がレジリエンスに及ぼす影響—青年期の自我同一性に着目して—」

「青年期の自立と親の夫婦関係との関連—夫婦間葛藤場面での親の行動・青年の葛藤への巻き込まれおよび家族機能に注目して—」

「クライアントの悩みの『話せなさ』はどのように変化するのか—『来談に至るまでに生じる変化』及び『来談開始後に生じる変化』に注目して—」

「中学生の“キャラ”を用いた友人関係が精神的健康に及ぼす影響—友人グループの状態に注目して—」

「TATにおける語り手の体験の検討—インタビューを用いた基礎的研究—」

「過剰適応における認知行動的要因とその変容に関する研究」

【臨床社会学】

Q1：大学では社会学専攻ではなかったのですが、どのような準備をしたらよいですか。

A：大学で、人文社会学の他の分野を専攻したり、理系の分野を専攻した人も入学しています。入試では、専門科目として社会学の専門的すぎないレベルの知識や発想について尋ねるので、ご自身で勉強してください。また、英語については社会学の論文を読める程度の力がが必要です。英語で書かれた社会学の入門書を、あまり辞書を使わず読めるくらいまで勉強してください。

Q2：社会人入試で大学院に入学してから、専門家になるために学んでいくにはどうしたらよいですか。

A：臨床社会学は、社会人経験をしてから学びたい方の方が多い分野です。そういう方が大学院で学び、さらに専門家となっていくことも応援したいと思います。社会人入試には英語科目がありませんが、専門家として英語力は欠かすことはできませんので、入学後集中して学ぶ必要があるでしょう。自分のテーマを探求する一方で、幅広く社会学全般について学ぶことや、思考力や執筆力などを身に着けることも重要です。専門家になるには一般に、博士後期課程でのさらなる研究が必要です。

【臨床教育学】

Q1：臨床教育学コースには、教育学以外にも、博物館学や図書館学の科目がありますが、どうしてでしょうか。教育学との関係について知りたいのですが。

A：教育機関には、学校以外に、公民館、博物館、図書館などの社会教育施設も含まれます。生涯教育、生涯学習の時代といわれる現代社会においては、学校だけでなく、社会教育施設を含めた幅広い視点と枠組みから教育という現象を考察する必要があります。当コースで教育学に加えて、社会教育学、博物館学、図書館学関係の科目を設置しているのは、そうした理由によります。勿論、修士論文や博士論文のテーマも、教育学だけでなく、社会教育学、博物館学、図書館学からテーマを選ぶこともできます。